大学院入学から修了まで

臨床系歯学を専攻する学生のために

Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Course for Oral Life Science

新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

大学院医歯学総合研究科　口腔生命科学専攻

大学院入学から修了まで

臨床系歯学を専攻する学生のために

はじめに

超高齢社会を迎えた我が国では、歯学に対し、社会に貢献できる人材の育成に加え、超高齢化やグローバル化に対応した人材の育成や医療イノベーションの創出による健康長寿社会の実現への貢献を求めています。

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的としています。大学院は研究者養成機関とみなされ、研究者・教育者養成に加え、各分野において指導的役割を果たす、高度で専門的な職業能力を有する人材（高度専門職業人）を養成する教育機関としての使命を帯びるようになってきました。

科学技術の進歩、高度な歯科医療ニーズ、倫理観の醸成への期待に加え、臨床研修制度の義務化、専門医制度の広まりなどにより、歯学系専攻である口腔生命科学専攻に進学する学生の多くが臨床歯学志向となっています。本専攻は、平成20年度文部科学省事業「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、課程制大学院の実質化に向けた教育改革を実施してきました。専門医制度の導入を視野に入れ、今までにも増して、技能系教育をともなう臨床系大学院教育課程の高度化が課題となっています。しかし、高度専門職業人の育成を目的にしている多くの医療系大学院では、臨床技能に関する具体的な習得目標などは明確にされていません。

このパンフレットは、本専攻で展開している臨床系プログラムとその到達目標を明示することで、大学院進学を希望する学生諸君の進路選択や本専攻在学生の指針として役立つことを目的に編集しました。本パンフレットを活用し、本専攻について理解を深めていただくことを希望します。

令和２年４月

大学院医歯学総合研究科長　**大峡 淳**

はじめに（臨床系歯学を専攻する学生のために）

平成20年度文部科学省事業「大学院教育改革プログラム」の実施により大学院博士課程教育の実質化に取り組み始めて10年が経ちました。この間、歯科医師国家試験合格率の低下、歯科医師国家試験出題基準の改定、歯科臨床研修後の若手歯科医師の大学離れ、求められる地域医療や国際オーラルヘルスプロモーションのニーズ拡大など、歯科医療が迎えたパラダイムシフトを背景として、大学院の在り方も変わってきています。その中で新潟大学大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻に進学された大学院生、ことに臨床系の大学院生に対しては、研究者としての人材のみならず、時代のニーズに対応できる高度専門医療職業人として養成すべく、具体的な目標が掲げられてきました。その流れはますます加速し、昨今では臨床志向の強い大学院生が増えてきたように感じています。

この度、10年間の「大学院教育改革プログラム」実施を経て本パンフレットを改訂することとなりました。本パンフレットには、各臨床分野における具体的・実質的なプログラムと到達目標が提示されています。さらに４年間の大学院生活の中で臨床系の大学院生として何が求められているのか、何を習得できるのか、そのために何をしなければいけないかをイメージしてもらいやすい内容となっています。自らの進路選択や将来目標の設定に、本パンフレットを活用していただけることを願っています。

大学院（歯学系）学務委員会委員長　**井上 誠**

NIIGATA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF MEDICAL AND DENTAL SCIENCES

INDEX

はじめに

大学院入学から修了まで

大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻

口腔健康科学講座
- 予防歯科学分野 …… 2
- う蝕学分野…… 4
- 小児歯科学分野…… 6
- 生体歯科補綴学分野…… 8
- 顎顔面口腔外科学分野……10

摂食環境制御学講座
- 歯周診断・再建学分野……12
- 歯科矯正学分野……14
- 摂食嚥下リハビリテーション学分野 ……16

顎顔面再建学講座
- 包括歯科補綴学分野 ……18
- 組織再建口腔外科学分野……20
- 顎顔面放射線学分野……22
- 歯科麻酔学分野……24

あとがき……26

口腔健康科学講座

予防歯科学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	1. 個人を対象とした予防管理方法の習得 2. 地域・集団に対する歯科保健の目標設定方法の習得 3. 学術研究の実践方法の習得	1. すべてのライフステージにおける歯・口腔の健康保持・増進を達成する手法を習得する。 2. 地域住民の健康づくりと歯科保健の向上にむけた取り組み手法を習得する。 3. 予防歯科学および地域・国際歯科保健学に基づく研究を実践する。	1. すべてのライフステージにおける歯・口腔の健康保持・増進を達成するより専門的な手法を習得する。 2. 地域住民の健康づくりと歯科保健の向上にむけたより専門的な取り組み手法を習得する。 3. 予防歯科学および地域・国際歯科保健学に基づく研究を実践する。	予防歯科学および地域・国際歯科保健学に基づく学術研究の分析および論文作成の実践。	予防歯科学および地域・国際歯科保健学の専門的知識と技能および経験を習得する。
到達目標	1. 個人を対象に、ライフステージに沿った歯科疾患のリスク評価および予防処置を計画できる。 2. 地域住民の健康づくりと歯科保健の向上にむけた課題を見つけることができる。 3. プロトコール（研究デザイン）の作成および適切な統計手法を理解することができる。	1. 予防歯科臨床において以下のことができる。 ①機能とリスクの評価ができる。 ②予防と口腔ケアの計画立案ができる。 ③予防と口腔ケアの実施ができる。 ④予防と口腔ケアの評価、改善ができる。 2. 地域・国際歯科保健において以下のことができる。 ①保健活動の計画立案 ②保健活動の実施 ③保健活動の評価、改善 3. 予防歯科学および地域・国際歯科保健学の視点を用い、仮説の設定、および仮説に基づいた研究計画の立案、実践ができる。	1. 予防歯科臨床において以下のことができる。 ①唾液機能検査　②口臭予防 ③禁煙誘導・サポート ④口腔機能のリハビリテーション ⑤障害者に対する歯・口腔予防対策 2. 地域・国際歯科保健において以下のことができる。 ①保健医療関係法規について、基本的な指針・通知を含め理解している。 ②地域関連諸団体との連携について基本的な方法・事項を理解している。 ③地域住民参加・住民主体の保健事業展開する方法を理解している。 ④地域歯科保健事業の策定ができる。 ⑤事業評価の方法および報告の方法を理解している。 ⑥国際歯科保健に関する基本的な指針および保健事業の策定ができる。 3. 予防歯科学および地域・国際歯科保健学の視点を用い、研究の実践、評価ができる。	予防歯科学および地域・国際歯科保健学に関する学会報告および学術論文の作成ができる。	1. 妊産婦、小児、成人、高齢者、障害者、要介護者、障害者など、すべてのライフステージにおける歯・口腔の健康保持・増進に必要な機能とリスクの評価、予防と口腔ケアの計画立案・実施・評価・改善ができる。 2. 地域住民の健康づくりと国際歯科保健の向上にむけた保健活動の計画立案・実施・評価・改善に関する支援・指導ができる。母子、学校、成人、高齢者、障害者、要介護者、障害者などのそれぞれの対象集団の歯・口腔の健康保持・増進にかかわる支援・指導方法、ならびに関連する法規や制度に精通する。 3. 予防歯科学および地域・国際歯科保健学において学術論文を作成することができる。
教育資源	●予防歯科診療室での臨床 ●日本口腔衛生学会への参加 ●日本口腔衛生学会認定医研修会への参加 ●地域・国際歯科保健活動への参加	●予防歯科診療室での臨床 ●日本口腔衛生学会への参加 ●行政・国際機関主催の各種委員会等への参加 ●日本口腔衛生学会認定医研修会への参加	●予防歯科診療室での臨床 ●日本口腔衛生学会への参加 ●行政・国際機関主催の各種委員会等への参加 ●日本口腔衛生学会認定医研修会への参加	●予防歯科診療室での臨床 ●国際歯科研究学会（IADR）への参加および発表 ●日本口腔衛生学会への参加および発表 ●新潟歯学会への参加および発表	
評価方法	●予防歯科臨床および地域・国際歯科保健活動に関するケースプレゼンテーションおよび国際誌を対象とした文献レビューに基づき担当教員による口頭試問 ●社会人大学院生に対しては国際誌を対象とした文献レビューの提出	●予防歯科臨床および地域・国際歯科保健活動に関するケースプレゼンテーションおよび国際誌を対象とした文献レビューに基づき担当教員による口頭試問 ●社会人大学院生に対しては国際誌を対象とした文献レビューの提出	●予防歯科臨床および地域・国際歯科保健活動に関するケースプレゼンテーションおよび国際誌を対象とした文献レビューに基づき担当教員による口頭試問 ●社会人大学院生に対しては国際誌を対象とした文献レビューの提出	●予防歯科学および地域・国際歯科保健学に基づく学術論文草稿について分野内教員による評価	●学位論文審査 ●査読のある学術論文の掲載

口腔健康科学講座

う蝕学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	●保存修復および歯内療法における専門医レベルの診療を行なうために、必要な基盤的知識、症例記録法および診療技術を習得する。 ●学術研究を円滑に開始するために、必要な基礎的研究手法を習得する。	●保存修復および歯内療法における専門医レベルの診療を行なうために、必要な専門的知識と症例報告（プレゼンテーション）技術を習得するとともに、基盤的診療技術を実践する。 ●学術研究を円滑に実施するために、指導者とともに研究計画を立案し、これに基づく基礎的もしくは臨床的研究に着手する。	●保存修復および歯内療法における専門医レベルの診療を行なうために、必要な専門的知識とプレゼンテーション能力を深めるとともに、診療技術の習熟をはかる。 ●国際レベルの学術研究を実施するために、研究計画に基づき基礎的もしくは臨床的研究を推進する。	●保存修復および歯内療法の先端的診療を専門医・認定医レベルで行なうために、必要な専門知識とプレゼンテーション能力を備えるとともに専門的診療技術に習熟する。 ●国際レベルの学術研究の結果を報告するために、研究結果の総括と論文作成を行う。	●保存修復および歯内療法の先端的診療を専門医・認定医レベルで行なうために、必要な専門知識とプレゼンテーション能力を備えるとともに専門的診療技術に習熟する。 ●国際レベルの学術研究の結果を報告するために、研究結果の総括と論文作成を行う。
到達目標	●保存修復・歯内療法における高頻度治療を確実に行う。 ●保存修復・歯内療法における先端的診療を説明する。 ●保存修復・歯内療法における先端的診療に関連する基本的手技を行う。 *先端的診療の該当例 マイクロエンドドンティクス（非外科的、外科的）、Ni-Tiロータリーファイルによる根管形成、垂直加圧根管充填、CAD/CAMオールセラミック修復、レイヤリングテクニックによる直接法審美修復、間接法ベニヤ修復、各種ホワイトニング ●症例記録、ケースプレゼンテーションを適切に行う。 ●保存修復・歯内療法の基本的臨床コンセプトを説明する。 ●基礎的研究技法を実践する。	●保存修復・歯内療法における高頻度治療を円滑に行う。 ●保存修復・歯内療法における先端的診療に関連する基本的手技を実践する。 ●症例記録、ケースプレゼンテーションを適切に行う。 ●保存修復・歯内療法における最新の臨床コンセプトを説明する。 ●研究テーマに関連する基礎的、臨床的知見を説明する。 ●予備研究を実践し、その評価ができる。	●保存修復・歯内療法における先端的診療に関連する基本的手技を円滑に行う。 ●ケースプレゼンテーションを適切に行う。 ●症例記録、ケースプレゼンテーションを適切に行う。 ●保存修復・歯内療法における最新の臨床コンセプトを収集し、統合的に説明する。 ●研究テーマに関連する基礎的、臨床的知見を統合的に説明する。 ●研究を実践し、その結果をまとめることができる。	●保存修復・歯内療法における専門医レベルの診療を行う。 ●専門医・認定医申請に必要な症例記録を作成し、ケースプレゼンテーションを行う。 ●保存修復・歯内療法における専門医レベルの臨床コンセプトを収集し、展開的に説明する。 ●研究テーマに関連する基礎的、臨床的知見を統合的に説明する。 ●学位論文を作成する。	●保存修復・歯内療法における専門医レベルの診療を行う。 ●日本歯科保存学会保存治療認定医の資格を申請する。 ●学位審査に合格する。
教育資源	●歯の診療科外来診療 ●症例記録フォーム ●テキスト、文献 ●プレゼンテーション用器材 ●歯科用実体顕微鏡（実習用） ●シミュレーション実習器材 ●研究用器材	●歯の診療科外来診療 ●症例記録フォーム ●テキスト、文献 ●プレゼンテーション用器材 ●研究用器材	●歯の診療科外来診療 ●症例記録フォーム ●テキスト、文献 ●プレゼンテーション用器材 ●研究用器材	●歯の診療科外来診療 ●症例記録フォーム ●テキスト、文献 ●プレゼンテーション用器材 ●研究用器材	●歯の診療科外来診療 ●症例記録フォーム ●テキスト、文献 ●プレゼンテーション用器材
評価方法	●症例評価 ・自験例より選択された任意のレベルの症例を審査対象とする。 ・症例レベルはう蝕学分野で別途定める基準により以下の３段階に分類する。 1：一般症例 2：先端的診療(*)の症例 3：先端的診療(*)の症例（難症例、特殊症例） ・認定の条件 1：症例記録フォームの記載内容および必要資料（口腔内写真、X線写買など）が関連学会の専門医・認定医申請要件を満たしていること（経過観察期間は任意とする） ・個々の症例が指導医による症例診査に合格していること ●ケースプレゼンテーション 診療内容の適切性、プレゼンテーションの構成、およびプレゼンテーンヨンの中で適切な考察が行われていることを評価項目とする。 ●文献抄読 適切な抄録作成およびプレゼンテーションが的確に行われることを合格の要件とする。 ●臨床歯学コースワーク 「歯内疾患制御学臨床演習コース」を受講し、合格することを１年次修了認定要件とする。 ●研究所見報告 データの取り扱いと解釈が的確に行われることを合格の要件とする。	●症例評価 ・自験例より選択された任意のレベルの症例（レベル２以上を含む）を審査対象とする。 ・認定の条件は１年次と同様とする。 ●ケースプレゼンテーション １年次と同様 ●文献抄読 １年次と同様 ●臨床トピックプレゼンテーション 保存修復・歯内療法の臨床トピックについて、複数の文献より総説的に報告する。プレゼンテーションが的確に行われることを合格の要件とする。 ●研究所見報告 １年次と同様。	●症例評価 ・自験例より選択された任意のレベルの症例（レベル３以上を含む）を審査対象とする。 ・認定の条件は１年次と同様とする。 ●ケースプレゼンテーション １年次と同様 ●文献抄読 １年次と同様 ●臨床トピックプレゼンテーション 保存修復・歯内療法における最新の臨床コンセプトを収集し、統合的に説明する。プレゼンテーションが的確に行われることを合格の要件とする。 ●研究成果発表 少なくとも一回の学会発表を行うことが望ましい。	●症例評価 ・自験例より選択された任意のレベルの症例（レベル３以上を含む）を審査対象とする。 ・認定の条件は１年次と同様とする。 ●ケースプレゼンテーション １年次と同様 なお、４年次修了までに学外（学会、他大学など）でケースプレゼンテーションを行うことが望ましい。 ●文献抄読 １年次と同様 ●臨床展開型トピックプレゼンテーション 保存修復・歯内療法における最新の臨床コンセプトを収集し、展開的に説明する。プレゼンテーションが的確に行われることを合格の要件とする。 ●研究成果発表 少なくとも一回の学会発表を行う。 ●論文投稿	●最終症例報告 ・保存修復、歯内療法各１例以上。レベル３の症例および１年以上の経過観察が行われた症例を含むことが望ましい。 ●総括臨床評価 ４年間の臨床実績を対象とする。 ●日本歯科保存学会保存治療認定医の資格申請 ●学位審査

口腔健康科学講座

小児歯科学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	小児および障害児者の歯科治療を安全かつ確実に行うために、検査、診断、治療方法、行動調整法に関する基礎的知識と基本的技術を身につける。	小児および障害児者の歯科治療を実践的に行うために、検査、診断、治療方法、行動調整法を自ら選択することができるとともに、様々な症例を経験する。	小児および障害児者の歯科治療の知識、技術をより深めるために、より困難な症例を経験し実践する。	小児および障害児者の歯科治療を総合的かつ包括的に実践できるよう、知識・技術を習得する。	日本小児歯科学会専門医および日本障害者歯科学会認定医の取得に必要とされる知識・技術をさらに深める。
到達目標	1. 英語論文を的確に検索することができ、その論文の内容を理解することができる。 2. 小児および障害児者に対する行動調整法を理解できる。 3. 小児および障害児者の一口腔単位での治療計画を立案することができる。 4. 小児の簡単な齲蝕治療ができる。 5. 咬合誘導処置の診査、検査、診断、治療法を説明し、簡単な症例を実践することができる。 6. 外傷に関する診査、検査、治療方針を説明し、簡単な症例を実践することができる。 7. 小児歯科領域で行う小手術の種類、方法を説明できる。 8. 全身麻酔下、静脈内鎮静法下における歯科治療の適応、注意点、流れについて説明できる。	1. 小児歯科学および障害者歯科学の視点から、研究デザインの作成、研究計画の立案、実践ができる。 2. 指導医のもとで、自らが主治医となり患者を担当することができる。 3. 一口腔単位での治療を実践できる。 4. 対応が困難な非協力児、障害者の行動調整法および治療を経験する。 5. 咬合誘導処置を実践できる。 6. 外傷の処置を実践できる。 7. 簡単な小手術を実践できる。 8. 指導医のもとで、全身麻酔下、静脈内鎮静法下での歯科治療を経験する。	1. 小児歯科学および障害者歯科学に関連した研究を実践、評価検討できる。 2. 日本小児歯科学会専門医申請に必要な長期継続観察症例を自ら担当することができる。 3. より難易度の高い小児の齲蝕治療ができる。 4. 行動調整法を選択し、治療を行うことができる。 5. 困難な咬合誘導処置を実践できる。 6. 外傷の処置を総合的に実践できる。 7. 小手術を確実に実践できる。 8. 指導医のもとで、全身麻酔下、静脈内鎮静法下での歯科治療を実践することができる。	1. 小児歯科学および障害者歯科学に関連した研究を実践、学会報告および学術論文の作成を行うことができる。 2. 小児歯科、障害者歯科全般にわたる治療を総合的に行うことができる。 3. 日本小児歯科学会専門医申請に必要な長期継続観察10症例を自ら管理することができる。 4. 日本障害者歯科学会認定医申請に必要な60症例を経験することができる。	1. 学術論文を国際学術雑誌に発表する。 2. 日本小児歯科学会専門医取得に必要なケースプレゼンテーションができる。 3. 日本障害者歯科学会認定医取得に必要なケースプレゼンテーションができる。 4. 小児歯科領域、障害者歯科領域全般にわたって、より高度な知識、技術を習得できる。 5. 国際学会（IADR等）でのOralpresentationができる。
教育資源	●Webと旭町図書館での検索 ●講義、セミナー ●医局抄読会、症例検討会 ●小児歯科テキスト ●学術雑誌 ●診療録、エックス線写真、研究用模型 ●日本小児歯科学会への参加 ●日本障害者歯科学会への参加	●Webと旭町図書館での検索 ●講義、セミナー ●医局抄読会、症例検討会 ●学術雑誌 ●診療録、エックス線写真、研究用模型 ●日本小児歯科学会への参加 ●日本障害者歯科学会への参加	●Webと旭町図書館での検索 ●講義、セミナー ●医局抄読会、症例検討会 ●学術雑誌 ●診療録、エックス線写真写真、研究用模型 ●日本小児歯科学会への参加 ●日本障害者歯科学会への参加	●Webと旭町図書館での検索 ●医局抄読会、症例検討会 ●学術雑誌 ●診療録、エックス線写真、研究用模型 ●日本小児歯科学会での発表 ●日本障害者歯科学会での発表 ●新潟歯学会での発表	●Webと旭町図書館での検索 ●医局抄読会、症例検討会 ●学術雑誌 ●診療録、エックス線写真、研究用模型 ●IADRでの発表
評価方法	●英語論文の要約・発表 ●外来診療全般についての観察記録による評価 ●小児および障害児者の行動調整法および治療に関する口頭試問 ●全身麻酔下、静脈内鎮静法下の治療に関するレポート ●レポートによる自己評価	●英語論文の要約・発表 ●外来診療全般についての観察記録による評価 ●担当する患児の治療方針の提示および治療経験のケースプレゼンテーション（齲蝕治療等） ●全身麻酔下、静脈内鎮静法下の治療の観察記録による評価 ●レポートによる自己評価	●学位論文に関するプレゼンテーションと教員による評価 ●外来診療全般についての観察記録による評価（主に障害児者） ●担当する患児の治療方針の提示および治療経験のケースプレゼンテーション（障害児者等） ●全身麻酔下、静脈内鎮静法下の治療に関するケースプレゼンテーション ●レポートによる自己評価	●小児歯科学会または障害者歯科学会における発表 ●外来診療全般についての観察記録による評価（総合） ●担当する患児の治療方針の提示および治療経験のケースプレゼンテーション（継続的ケース） ●障害者歯科学会認定医申請のための症例提示と教員による評価 ●レポートによる自己評価	●日本小児歯科学会専門医申請のための症例提示 ●障害者歯科学会認定医取得のための症例提示および筆記試験による評価 ●小児歯科領域・障害者領域全般にわたる口頭試問

口腔健康科学講座

生体歯科補綴学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	1. 補綴治療を確実に行うために、補綴歯科治療に関連する基本的な知識と技能を身につける。 2. 学術研究に必要な基礎知識を身につける。	1. 補綴治療を適切に行うために、補綴学的に必要な検査・治療方法に関する知識と診療計画立案能力および単純な欠損補綴に関する技能を身につける。 2. 学術研究を円滑に行うために、指導者と研究計画を策定し、基本的な実験技能を身につける。	1. 補綴治療を適切に行うために、咬合再建に必要な知識と技能を身につける。 2. 学術研究を展開し、研究レベルを向上させるために、必要な情報収集および情報提供方法を身につける。	1. 患者の咀嚼機能を適切に回復するために、必要な補綴処置に関する知識と技能を身につける。 2. 国際的に通用する学術研究論文を執筆する能力を身につける。	1. 患者の咀嚼機能を適切に回復するために、一口腔単位総合的、包括的な補綴治療を理解して実践する。 2. 指導者と相談し、国際的にレベルの高い学術研究を実践して自ら結果を総括する能力を身につける。
到達目標	1. 歯冠修復法を選択する。 2. クラウンの形成・印象・咬合調整・装着を行う（5例）。 3. 義歯の印象・設計・咬合調整・装着を行う（5例）。 4. 日本補綴歯科学会に入会する。 5. 必要に応じて学術論文を検索する。 6. 抄読会・ジャーナルクラブに参加して発表し、国内外の学術研究の概要を把握する。	1. 補綴方法を選択する（5例）。 2. ブリッジの設計を行う（5例）。 3. 3ユニットブリッジの形成・印象・装着を行う（5例）。 4. 顎口腔機能検査を列挙する。 5. デンタルインプラントの概要を説明する。 6. 学位研究を開始し、パイロットデータを収集する。 7. 得られた実験データをまとめる。	1. オーラルリハビリテーションを目的とした診療計画を立案する（3例）。 2. 多数歯の修復を同時に行う（3例）。 3. 多数歯欠損の補綴治療を行う（5例）。 4. 顎口腔機能検査を行う（1例）。 5. 国内学会で発表する。	1. オーラルリハビリテーションを行う（3例）。 2. 基本的なデンタルインプラントの手技を修得する。 3. 英語でコミュニケートする。 4. 国際学会で発表する。 5. 論文執筆を開始する。	1. 補綴歯科専門医資格の早期取得を目指し、デンタルインプラントを含めた総合的な補綴診療を行う（3例）。 2. 英語で学術研究に関して討論する。 3. 国際学会にて発表する。 4. 論文を国際誌に投稿する。 5. 自ら立案した研究を開始する。
教育資源	●シミュレーション実習に使用する顎模型・人工歯 ●ビデオ ●テキスト ●症例検討会 ●抄読会・ジャーナルクラブ	●シミュレーション実習に使用する顎模型・人工歯 ●ビデオ ●テキスト ●症例検討会 ●抄読会・ジャーナルクラブ	●症例検討会 ●抄読会・ジャーナルクラブ	●症例検討会 ●抄読会・ジャーナルクラブ	●症例検討会 ●抄読会・ジャーナルクラブ
評価方法	1. 外来におけるチェックシート 2. 教員による治療のチェック 3. ビデオによる治療姿勢（ポジショニング）の評価 4. 症例検討会における発表評価 5. 抄読会・ジャーナルクラブでの発表評価	1. 外来におけるチェックシート 2. 教員による治療のチェック 3. 症例検討会における発表評価 4. 抄読会・ジャーナルクラブでの発表評価	1. 外来におけるチェックシート 2. 教員による治療のチェック 3. 症例検討会における発表評価 4. 抄読会・ジャーナルクラブでの発表評価 5. 国内学会における発表評価	1. 外来におけるチェックシート 2. 教員による治療のチェック 3. 症例検討会における発表評価 4. 抄読会・ジャーナルクラブでの発表評価 5. 国際学会における発表評価	1. 外来におけるチェックシート 2. 患者による治療のフィードバック 3. 症例検討会における発表評価 4. 投稿する雑誌のインパクトファクター 5. 国際学会における発表評価 6. 学位審査

顎顔面口腔外科学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	●口腔外科疾患の診断、入院管理、全身管理（麻酔）の基本手順・手続き等を理解し、実施する。 ●学術研究、臨床研究を進めるために必要な知識を身につける。 ●口腔外科手術のための基本手技を身につける。	●＊全身状態、局所状態を考慮して、治療計画を立てる。 ●学位論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 ●＊口腔外科の基本手術を術者として執刀する。	●＊診断、治療計画立案、患者説明を行う。 ●学位取得のための研究を進め、随時成果をまとめる。 ●＊（公社）日本口腔外科学会・認定医（専門医制度）取得のための準備を進める。	●＊（公社）日本口腔外科学会認定の「認定医」資格の取得または相当する口腔外科医としての知識・技術・態度を修得する。 ●研究成果をまとめる。	●（公社）日本口腔外科学会認定の「認定医」資格を取得する。 ●口腔外科臨床における初級者への指導、助言ができる。 ●学位を取得する。
到達目標	●診断のための所見の取り方を習得する。 ●診断のための臨床検査を依頼し、結果から病態を把握できる。 ●診断のための画像検査を依頼し、所見から病態を把握できる。 ●感染対策の基本（標準予防策）を説明する。 ●他科・他院との連携のための文書を記載する。 ●歯科麻酔研修期間中に全身麻酔（気管内挿管）管理症例を経験する。[*1] ●救命救急（BLS/ACLS）コースによる認定を受ける。 ●手術の基本手技である切開、止血、縫合および創管理を習得する。 ●（公社）日本口腔外科学会に入会する。	●＊全身疾患を有する患者さん（有病者）の外科処置をマネージメントする。 ●＊口腔外科外来にて抜歯、難抜歯、歯根端切除等を執刀する（10症例以上）。 ●＊全身麻酔下手術の助手として周術期管理を行う（10症例）。 ●＊医科入院中の患者さんの周術期口腔機能管理を理解する。 ●症例報告を学会雑誌に投稿するための準備を進める（論文の書き方を理解する）。 ●研究テーマに関するディスカッションを行うための文献検索、抄読を行う。 ●研究を進めるための基本手技を身につける。	●＊診断、治療計画、手術方法を理解し、患者さんにインフォームドコンセントを行う。 ●＊埋伏歯抜歯など歯の抜去、歯肉・歯槽部の腫瘍手術、消炎手術、顎堤形成術等から10例以上を執刀する。 ●研究結果をまとめ、考察を加え発表する。 ●（公社）日本口腔外科学会雑誌へ症例報告を投稿する。 ●＊認定医試験受験のための申請資料を作成する（レポート形式）。	●＊認定医取得に必要な要件（３年次までに終了予定）の不足分を補う。 ●＊（公社）日本口腔外科学会雑誌での症例報告掲載する。 ●＊（公社）日本口腔外科学会の専修医資格を取得する。 ●学位論文を作製し、投稿する。	●（公社）日本口腔外科学会認定の「認定医」資格の取得または相当の知識・技術・態度を修得する。 ●口腔外科臨床における初級者への指導、助言ができる。 ●学位論文を投稿し、掲載または受諾証明を取得する。
教育資源	●抄読会への参加および発表。 ●口腔外科外来、病棟および歯科麻酔科での研修。 ●外来患者の診断症例検討会。 ●入院患者の手術前症例検討会。 ●歯科麻酔の麻酔症例検討会。 ●（公社）日本口腔外科学会、関連学会（以下、諸学会[*2]）への参加。 ●救命救急（BLS/ACLS）コース。 ●各種手術手技・医療安全・感染対策に関する図書およびビデオ。	●抄読会への参加および発表。 ●＊口腔外科外来および病棟での研修。 ●＊外来患者の診断症例検討会。 ●入院患者の手術前症例検討会。 ●＊（公社）日本口腔外科学会、諸学会への参加。 ●学会主催の教育研修会への参加。 ●各種手術手技・医療安全・感染対策に関する図書およびビデオ。	●抄読会への参加および発表。 ●＊口腔外科外来および病棟での研修。 ●＊外来患者の診断症例検討会。 ●入院患者の手術前症例検討会。 ●＊（公社）日本口腔外科学会、諸学会への参加。 ●学会主催の教育研修会への参加。 ●各種手術手技・医療安全・感染対策に関する図書およびビデオ。	●抄読会への参加および発表。 ●＊口腔外科外来および病棟での研修。 ●＊外来患者の診断症例検討会。 ●入院患者の手術前症例検討会。 ●（公社）日本口腔外科学会、諸学会への参加。 ●学会主催の教育研修会への参加。 ●各種手術手技・医療安全・感染対策に関する図書およびビデオ。	●抄読会への参加および発表。 ●口腔外科外来および病棟での研修。 ●外来患者の診断症例検討会。 ●入院患者の手術前症例検討会。 ●（公社）日本口腔外科学会、諸学会への参加。 ●学会主催の教育研修会への参加。 ●各種手術手技・医療安全・感染対策に関する図書およびビデオ。
評価方法	●各部署での指導医よりそれぞれの診断、治療方針、手技等への助言をもらう。 ●経験症例の中から１例を学内学会・検討会において報告する。	●研究指導者より文献検索、抄読、基本的研究手技、研究計画等について、評価、助言をもらう。 ●＊外来および病棟上級医より、症例毎の指導および手術手技に対する評価・助言をもらう。	●関連学会雑誌に投稿する。 ●＊（公社）日本口腔外科学会認定医試験受験のための申請資料（レポート形式）作成する。 ●研究指導者より研究結果についての、評価・助言をもらう。	●＊（公社）日本口腔外科学会認定医試験を受験する（２年間の学会入会と診療実績が必要）。 ●研究成果の発表に対する評価および論文投稿に対する査読・評価を受ける。	●（公社）日本口腔外科学会認定の「認定医」資格を取得する。 ●学位論文が採択される。 ●学位を取得する。

注＊１：全身麻酔研修は1年目の4か月であるため、当初より口腔外科専門医を考えている場合には、20症例を経験する。
注＊２：専修医の認定には、（公社）日本口腔外科学会のみでなく指定された関連学会での論文も認められています。
注＊３：1年目は臨床系、基礎系ともに共通のプログラムです。2年目～4年目における＊印は研究課題が臨床系の大学院生対象です。

摂食環境制御学講座

歯周診断・再建学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	1. 歯周治療を確実に行うために、歯周疾患の診断、検査法、治療方法、治療体系に関する基本的知識と技能を習得する。 2. 学位論文テーマを決め、指導者と研究計画を立案し、基礎的研究知識、技能を身に着ける。	1. 歯周治療を適切に行うために、必要な検査法、治療方法を選択し、歯周基本治療を実践する能力を身に着ける。 2. 学術研究に必要な基本的な知識および技能を習得するとともに、研究発展のための計画を指導者とともに立案する。	1. 専門性の高い歯周治療を行うために、歯周外科治療が行える知識と技能を習得する。 2. 研究内容を総括し、学会で研究発表を行う能力を習得する。	1. 総合的かつ包括的な歯周治療が実践できるよう、知識・技能を習得する。 2. 国際学術誌への論文投稿に向けて学位論文を作成する能力を習得する。	1. 日本歯周病学会認定医に相当する知識と技能を習得する。 2. 学術研究を自ら立案し実践する能力を習得する。
到達目標	●歯周疾患の診断に必要な検査を選択し、病態を理解することができる。 ●歯周疾患の検査および治療の流れについて理解し、説明することができる。 ●SRPを中心とする歯周基本治療を行う。 ●指導医とともに研究計画を立案し、研究を開始する。 ●情報・資料収集方法を習得する。 ●研究計画に関して、背景、仮説、意義について説明できる。	●患者症例で、診査、診断ができ、SPRを中心とする歯周基本治療が実践できる。 ●指導医のもとで、歯周外科処置を助手として経験する。 ●医局症例検討会における他発表者の症例プレゼンテーションを理解し、質問することができる。 ●研究結果を解析し、次の研究計画を立案する。 ●研究成果を医局研究報告で発表し、討論することができる。	●一口腔単位での包括的な歯周治療計画を立案することができる。 ●患者症例で、歯周基本治療を修了したあとの歯周手術、補綴処置を実践できる。 ●各種学術大会にて研究発表を行うことができる。	●患者症例で、初診からSPTまでの一貫した治療計画を立案し、実践できる。 ●患者症例でリスク因子に合わせた治療を行うことができる。 ●医局症例検討会で発表を行い、討論することができる。 ●医局研究報告にて他発表に意見を述べることができる。 ●国際学会にて研究発表を行う。 ●国際学術誌への受理を目指し英語論文を作成する。	●日本歯周病学会認定医取得に必要とされる研修実績を修了する。 ●日本歯周病学会認定医取得に必要なケースプレゼンテーションができる。 ●学位論文を完成させ、国際学術誌に投稿する。 ●指導者と相談の上、研究計画を自ら立案し、研究を開始する。
教育資源	医局症例検討会、医局研究報告 学術論文 講義、セミナー テキスト 国内学会への参加	医局症例検討会、医局研究報告 学術論文 講義、セミナー テキスト 国内学会への参加	医局症例検討会、医局研究報告 学術論文 国内学会での研究発表	医局症例検討会、医局研究報告 学術論文 国際学会での研究発表	医局症例検討会、医局研究報告 学術論文 日本歯周病学会認定医申請資料
評価方法	●歯周治療の基礎的知識および技能の達成度に対する指導教員による評価 ●直接指導者と統括指導者による研究評価（実験ノート、報告会資料作成、プレゼンテーション、口頭試問）	●診査、診断、治療計画および、治療術式の達成度に対する指導教員による評価 ●直接指導者と統括指導者による研究評価（実験ノート、報告会資料作成、プレゼンテーション、口頭試問）	●初診時からSPTまでの治療計画立案および治療術式についての達成度に対する指導教員による評価 ●直接指導者と統括指導者による（実験ノート、報告会資料作成、プレゼンテーション、口頭試問）	●初診時からSPTまでの治療術式についての達成度に対する指導教員による評価 ●直接指導者と統括指導者による研究評価（実験ノート、報告会資料作成、プレゼンテーション、口頭試問）	●日本歯周病学会認定医申請のための症例提示 ●学位審査

摂食環境制御学講座

歯科矯正学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	歯科矯正学的な治療・管理を理解するために、矯正臨床に関する基本的知識・技能・態度を身につける。	担当患者の分析、診断、治療計画の立案および治療を提供するために、矯正臨床に関する実践的な知識・技能・態度を習得する。	担当患者の動的治療を適切に行うために、治療法を選択し、実践する。	担当患者の治療経過および結果を把握するために、基本的評価方法を理解し、実践する。	日本矯正歯科学会認定医を申請するために、必要とされる矯正歯科基本研修および矯正歯科臨床研修（前期分）を修得する。
到達目標	●日本矯正歯科学会基本研修に定められる「歯科矯正学の基礎科目」を列挙し、概説できる。 ●スタンダードエッジワイズ装置による治療システムを理解し、模型（タイポドント）を用いて実践できる。 ●矯正領域に関連した保険診療について説明できる。 ●電子カルテ上で矯正領域に関連した保険診療録の記載ができる。	●矯正歯科治療に関連した診査、検査を適切に実施する。 ●矯正歯科診断に必要な側面・正面セファログラムのトレースが適切にできる。 ●診察、検査および分析結果から歯科矯正学的診断ができる。 ●口唇口蓋裂および顎変形症患者の治療・管理の原則を説明できる。 ●矯正治療（自験・アシスト症例を含め30症例以上）。	●担当患者に対しマルチブラケットを用いた第II期治療を実践できる。 ●口唇口蓋裂患者の分析、診断、治療を実践できる。 ●顎変形症患者の分析、診断、治療を実践できる。 ●矯正治療（自験・アシスト症例を含め80症例以上）。	●担当患者の治療経過時の資料を分析し、治療経過について評価できる。 ●隣接関連臨床科目への必要性を判断し、適切に依頼できる。 ●包括歯科医療としての矯正治療の位置づけについて説明できる。 ●矯正治療（自験・アシスト症例を含め100症例以上）。	●担当患者の治療経過時の資料を分析し、評価できる。 ●担当患者の治療経過あるいは治療結果について報告できる。 ●永久歯列期矯正治療（自験例10症例以上）。 ●混合歯列期矯正治療（自験例10症例以上）。 ●上記以外の診断症例（10症例以上）。 ●上記以外の治療経験（110症例以上）。 ●矯正装置の作製経験（15症例以上）。
教育資源	●講義・セミナー ●教科書および文献 ●タイポドントおよびタイポドント用シラバス ●実習室 ●矯正歯科診療室・技工室 ●症例検討会およびケースセミナー（終了症例発表・討論会） ●日本矯正歯科学会学術大会への参加	●教科書および文献 ●矯正歯科診療室・技工室 ●症例検討会およびケースセミナー ●日本矯正歯科学会学術大会への参加 ●日本矯正歯科学会生涯研修セミナーへの参加	●文献 ●矯正歯科診療室・技工室 ●症例検討会およびケースセミナー ●日本矯正歯科学会学術大会への参加 ●日本矯正歯科学会生涯研修セミナーへの参加 ●関連学会（日本顎変形症学会・日本口蓋裂学会等）学術大会への参加	●矯正歯科診療室・技工室 ●症例検討会およびケースセミナー ●症例チェック（担当患者10か月経過時）の提示、討論 ●日本矯正歯科学会学術大会への参加 ●日本矯正歯科学会生涯研修セミナーへの参加 ●関連学会（日本顎変形症学会・日本口蓋裂学会等）学術大会への参加	●症例検討会での担当患者の治療方針の提示、討論 ●症例チェック（担当患者10か月あるいは20か月時経過時）
評価方法	●レポート（Steiner分析の有用性・成長発育と治療時期・外科的矯正治療の手順・成人矯正治療の特徴・加齢による歯の移動様相の変化） ●英文ケースレポートの要約・発表・評価 ●口頭試問 ●実技試験	●口頭試問（教授診断時） ●矯正学・矯正臨床関連論文の要約・発表・評価 ●症例検討会における担当患者の治療方針の提示、討論	●症例検討会における担当患者の治療方針の提示、討論 ●口頭試問（教授診断時） ●症例チェック（口頭試問）	●症例検討会における担当患者の治療方針の提示、討論 ●口頭試問（教授診断時） ●症例チェック（口頭試問）	●症例チェック（観察記録・口頭試問） ●口頭試問（教授診断時）

摂食環境制御学講座

摂食嚥下リハビリテーション学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	一般歯科および高齢者歯科に必要な基本知識と技術を習得する。	摂食嚥下機能評価に必要な基本的検査を習得する。	摂食嚥下障害に対する検査・診断・訓練にいたる一連の臨床手技についての知識と技術を習得する。	3年次と同じ。	一般歯科治療ならびに摂食嚥下障害に対する治療計画を立てて、チームアプローチのもとに実践する。
到達目標	高齢者や有病者の全身ならびに顎口腔顔面領域の形態と機能の特徴を考慮して、歯科治療を行える。 口腔乾燥症と味覚障害の診断および治療を行える。 口腔機能低下症の検査および治療を行える。	摂食嚥下障害患者のスクリーニング検査を実施することができる(20症例以上)。 嚥下造影検査や内視鏡検査を実施することができる(10症例以上)。 摂食嚥下障害の臨床的アプローチに関する学術論文を読み、批評が行える(5論文以上)。	嚥下造影検査や内視鏡検査を実施した上で、その結果を読み取ることができる。(20症例以上)。 摂食嚥下機能評価の結果をもって、治療計画を立てられる(10症例以上)。 摂食嚥下障害の臨床的アプローチに関する学術論文を読み、批評が行える(5論文以上)。	3年次と同じ。	摂食嚥下障害患者の初診時検査・診断・訓練を含めたリハビリテーション、再評価までの一連の流れを理解し、実践できる。 高齢者や有病者の全身ならびに顎口腔顔面領域の形態と機能の特徴を考慮して、歯科治療を行える。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の取得を目指す。
教育資源	●新潟市内の高齢者施設	●透視検査機器 ●内視鏡検査機器 ●新潟市内の高齢者施設 ●日本摂食嚥下リハビリテーション学会への参加	●透視検査機器 ●内視鏡検査機器 ●新潟大学医歯学総合病院病棟 ●新潟市内の高齢者施設 ●日本摂食嚥下リハビリテーション学会への参加	●透視検査機器 ●内視鏡検査機器 ●新潟大学医歯学総合病院病棟 ●新潟市内の高齢者施設 ●日本摂食嚥下リハビリテーション学会への参加	
評価方法	●新潟大学医歯学総合病院、高齢者施設における歯科治療の自己評価レポートを提出し、細目について評価する。	●自らが関わった摂食・嚥下障害患者のケースの中から1)腫瘍術後、2)変性疾患、3)脳血管疾患のいずれかについて、ケースレポートを作成する。	2年次と同じ。	3年次と同じ。	●新潟大学医歯学総合病院, 高齢者施設における歯科治療ならびに摂食嚥下リハビリテーションの自己評価レポートを提出し、細目について評価する。

顎顔面再建学講座

包括歯科補綴学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	顎口腔系の疾病や加齢による変化と顎口腔機能を診断し、その維持・回復を図る補綴歯科治療学を学ぶ。	顎口腔系の疾病や加齢による変化と顎口腔機能を診断し、その維持・回復を図る補綴歯科治療学を実践する。	顎口腔系の疾病や加齢による変化と顎口腔機能を診断し、その維持・回復を図る補綴歯科治療学を実践する。	顎口腔系の疾病や加齢による変化と顎口腔機能を診断し、その維持・回復を図る補綴歯科治療学の実践と治療効果を評価する。	顎口腔系の疾病や加齢による変化と顎口腔機能を診断し、その維持・回復を図る補綴歯科治療学の重要性を修得する。
到達目標	1. 歯の喪失や加齢による顎口腔機能の変化を診断するための基本的情報を収集できる。 2. 有床義歯支持組織の加齢変化を理解できる。 3. 口腔内診察、咬合器装着模型から咬合診断ができる。 4. 症例の難易度分類と難易度に応じた補綴歯科治療計画を立案できる。 診断・立案　2症例	1. 装置を用いて顎機能検査（咬合力、筋電図、顎運動、嚥下など）を実施し、評価できる。 検査　1症例 2. 有床義歯支持組織や口腔機能の加齢変化を診断できる。 3. 症例の難易度分類と難易度に応じた補綴歯科治療計画を立案し、担当教員の指導の下で治療できる。 計画・治療2症例	1. 装置を用いて顎機能検査（咬合力、筋電図、顎運動、嚥下など）を実施し、評価できる。 2. 有床義歯支持組織や口腔機能の加齢変化を診断できる。 3. 症例の難易度分類と難易度に応じた補綴歯科治療計画を立案し、担当教員の指導の下で治療できる。 計画・治療　2症例	1. 症例の難易度分類と難易度に応じた補綴歯科治療計画を立案し、担当教員の指導の下で治療できる。 2. 治療後の経過から診断、治療計画の適否を評価できる。 治療後の評価　2症例	1. 診察と検査から顎口腔機能状態を診断できる。 2. 関連する専門学会（日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本顎顔面補綴学会など）の認定医・専門医資格要件（学会出席、発表記録、治療記録）を蓄積できる。
教育資源	●医局症例セミナースライド ●医局内蔵書 ●日本補綴歯科学会Web資料 ●大学院セミナー資料	●顎機能検査機器（筋電図計、顎運動測定装置、咬合力計、舌圧測定システム、咀嚼回数計など） ●学会発表資料 ●医局症例セミナースライド ●医局内蔵書 ●日本補綴歯科学会Web資料 ●大学院セミナー資料	●顎機能検査機器（筋電図計、顎運動測定装置、咬合力計、舌圧測定システム、咀嚼回数計など）、咀嚼能力測定装置 ●学会発表資料 ●医局症例セミナースライド ●医局内蔵書 ●日本補綴歯科学会Web資料 ●大学院セミナー資料	●学会発表資料 ●医局症例セミナースライド ●医局内蔵書 ●日本補綴歯科学会Web資料 ●大学院セミナー資料	
評価方法	●顎機能を診断するための生体計測法の知識評価 ●模型診断記録 ●日本補綴歯科学会形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録	●顎機能検査機器を用いた診断記録 ●形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録	●顎機能検査機器を用いた診断記録 ●形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録 ●咀嚼機能評価記録	●顎機能検査機器を用いた診断記録 ●形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録	●関連学会が指定する治療記録用紙への記載

顎顔面再建学講座

組織再建口腔外科学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	●学術研究を進めるために必要な知識と技能を身につける。 ●口腔外科疾患の診断、周術期管理を安全におこなううえで必要となる基本的な診断能力、治療技術、態度を習得する。 ●口腔外科の基本手技を身につける。	●学位論文のテーマを決めて指導者とともに研究計画を立案し、研究計画に基づく基礎的・臨床的研究に着手する。 ●一般的な口腔外科疾患の診断、治療方針を立案する。 ●周術期の患者管理を安全におこなううえで必要となる診断能力、治療技術、態度を習得する。	●研究計画に基づく基礎的・臨床的研究を実践する。 ●手術室での手術執刀医としてインフォームドコンセントをおこなう。 ●周術期管理を安全におこなう。	●基礎的・臨床的研究内容を総括して指導者と相談しながら学位論文を作成する。 ●（公社）日本口腔外科学会認定医資格の取得に必要な診断能力、治療技術、態度を習得する。	●学位論文を完成する。 ●（公社）日本口腔外科学会認定医に相当する診断能力、治療技術、態度を習得する。
到達目標	●必要な文献を検索できるようになる。 ●患者への接し方、カルテの記載のしかた、他科への紹介状と照会状が書けるようになる。 ●診断に必要な所見が取れるようになる。 ●診断に必要な画像検査を選択・依頼でき、基礎的な画像診断ができる。 ●診断に必要な臨床検査を選択・依頼でき、検査値の示す病態を理解できる。 ●滅菌・消毒の概念を理解し、その知識を用いて診療することができる。 ●口腔外科で使用する器械・器具の名称を列挙できる。 ●切開法、縫合法、止血法、創傷処理を行うことができる。 ●基本的な埋伏歯の抜歯手術等、外来での簡単な小手術ができるようになる。 ●全身麻酔管理を実施し、呼吸管理の方法を理解する。	●研究テーマを決定し、研究計画を立案して、予備研究を実践し、その評価ができる。 ●研究テーマに関連する文献を検索し、抄読できるようになる。 ●炎症、嚢胞、腫瘍、外傷、顎関節疾患等について検査を含めて診断に至る過程を理解し、診断できるようになる。 ●全身疾患を有する患者の外来手術管理ができるようになる。 ●埋伏歯の抜歯手術、歯根尖切除術、嚢胞摘出術、消炎手術等、外来での小手術ができるようになる。 ●入院手術患者の周術期管理を理解し、補助ができるようになる。 ●救命救急の基本的処置ができる。 ●適切な抗菌薬、消炎鎮痛薬を選び、処方できる。 ●処方箋を記載できる。 ●適切な注射薬を選び、使用できる。	●基礎的・臨床的研究を実践し、結果をまとめることができる。 ●入院下での手術が必要な患者に現在の病状、手術内容、合併症等を説明し、理解してもらうことができる。 ●手術室でおこなう静脈内鎮静法、全身麻酔下での基本的な手術を執刀し、その周術期管理を安全におこなうことができる。 ●指導医のもと、顎変形症、口腔癌、口唇口蓋裂等の疾患の適切な診断と治療方針を立案できるようになる。 ●指導医のもと、助手以上の責務を負って顎矯正手術、癌・前癌病変の手術、口唇口蓋裂手術、上顎洞関連手術、良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成疾患等の手術に参加することができる。 ●外来での比較的難易度の高い小手術ができるようになる。	●基礎的・臨床的研究の成果を分析し、その内容を学会報告し、学位論文を作成することができる。 ●これまで経験した症例のうち、診断症例10例、全身疾患を有する患者の外来手術管理症例５例、入院手術管理症例５例、執刀手術30例、経験手術５例についてレポートにまとめることができる。 ●経験した症例について学会で報告し、論文を作成することができる。	●研究テーマに関する学位論文を完成し、投稿できる。 ●（公社）日本口腔外科学会認定医の認定を申請するのに必要とされる研修実績を修めることができる。
教育資源	●抄読会への参加 ●所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境 ●口腔外科外来および病棟、歯科麻酔科での研修 ●中央・外来手術室 ●術前後症例検討会への参加、日本口腔外科学会および関連学会への参加 ●外科基本手技・手術ビデオライブラリー	●抄読会への参加 ●所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境 ●口腔外科外来および病棟研修 ●術前後症例検討会への参加 ●（公社）日本口腔外科学会および関連学会への参加 ●（公社）口腔外科学会教育研修会、救命救急研修会への参加 ●外科基本手技・手術ビデオライブラリー	●抄読会への参加 ●所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境 ●口腔外科外来および病棟研修 ●術前後症例検討会への参加 ●（公社）日本口腔外科学会および関連学会への参加 ●口腔外科学会教育研修会、救命救急研修会への参加 ●外科基本手技・手術ビデオライブラリー	●抄読会への参加 ●所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境 ●口腔外科外来および病棟研修 ●術前後症例検討会への参加 ●（公社）日本口腔外科学会あるいは関連学会への参加および発表 ●新潟歯学会への参加および発表 ●外科基本手技・手術ビデオライブラリー	
評価方法	●テーマを決めて英文の文献検索し、レビューを作成して検討会で報告し、その内容を指導医が評価する。 ●担当した症例について検討会で報告後に報告書を作成し、指導医が評価する。 ●指導医のもとで基本的な外来小手術をおこない、指導医がチェックシートをもとに評価する。	●立案した研究計画と研究経過を検討会で発表し、指導医が評価する。 ●担当した症例について検討会で報告後に報告書を作成し、指導医が評価する。 ●指導医のもとで外来小手術をおこない、指導医がチェックシートをもとに評価する。	●研究結果を検討会で発表し、指導医が評価する。 ●担当した症例について検討会で報告後に報告書を作成し、指導医が評価する。 ●病棟主治医として指導医のもとで手前を執刀し、指導医がチェックシートをもとに評価する。 ●指導医のもとで比較的難易度の高い、外来小手術をおこない、指導医がチェックシートをもとに評価する。	●研究成果を学外、学内の学会で報告し、論文を作成して投稿し、学位審査および編集査読委員による外部評価を受ける。 ●経験した症例について学外の学会で報告し、論文を作成して投稿し、編集査読委員による外部評価を受ける。 ●これまで経験した症例より（公社）日本口腔外科学会認定医試験受験の申請資料を作成し、指導医が評価する。	●学術論文により学位審査を受ける。 ●査読のある学会誌に学術論文を投稿し、査読を受ける。 ●（公社）日本口腔外科学会認定医試験の申請資料を完成させ、指導医が評価する。

顎顔面再建学講座

顎顔面放射線学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	2年間をかけてNPO法人日本歯科放射線学会の歯科放射線認定医資格を得るために必要な研修項目を達成する。入学時点で研修医1年間を経過した者は2年目のプログラムから開始する。	前年に引き続き、NPO法人日本歯科放射線学会の歯科放射線認定医資格を得るために必要な研修項目を達成する。	4年間の大学院に臨床研修の1年間を加えた5年間をかけてNPO法人日本歯科放射線学会の歯科放射線専門医資格を得るために必要な研修項目を達成する。	前年に引き続き、4年間の大学院に臨床研修の1年間を加えた5年間をかけてNPO法人日本歯科放射線学会の歯科放射線専門医資格を得るために必要な研修項目を達成する。	1. NPO法人日本歯科放射線学会認定医資格を獲得する。 2. 4年間の大学院に臨床研修の1年間を加えNPO法人日本歯科放射線学会の歯科放射線専門医を受験できる素養を獲得する。
到達目標	1. 画像診断業務に従事し、読影報告書を一定の基準に基づいて作成するトレーニングを行う。 2. NPO法人日本歯科放射線学会地方会において学術発表を1回行う。	1. 画像診断業務に従事し、読影報告書50例以上を作成し（造影・CT・超音波・MRI・RIなどを20例以上含む）、そのうち20例以上は筆頭報告書として報告書を作成する。 2. NPO法人日本歯科放射線学会総会・学術大会において学術発表を筆頭演者として1回行う。 3.「歯科放射線」又は「Oral Radiology」に共同著者あるいは筆頭著者として1編以上の論文を投稿する。	1. 画像診断業務に従事し、読影報告書50例以上を作成し（造影・CT・超音波・MRI・RIなどを20例以上含む）、そのうち20例以上は筆頭報告書として報告書を作成する。 2. 放射線の物理的性質、人体への影響、安全取り扱いと管理技術、及び関連する法令などの研修を受ける。 3. NPO法人日本歯科放射線学会総会・学術大会において学術発表を筆頭演者として1回行う。 4.「歯科放射線」又は「Oral Radiology」に共同著者あるいは筆頭著者として1編以上の論文を投稿する。	1. 画像診断業務に従事し、読影報告書50例以上を作成し（造影・CT・超音波・MRI・RIなどを20例以上含む）、そのうち20例以上は筆頭報告書として報告書を作成する。 2. 口腔領域の放射線治療の適応と治療成績、及び関連する歯科的管理に関する研修を受ける。 3. NPO法人日本歯科放射線学会総会・学術大会において学術発表を筆頭演者として1回行う。 4.「歯科放射線」又は「Oral Radiology」に筆頭著者として論文を掲載する。	NPO法人日本歯科放射線学会認定医資格を獲得し、歯科放射線科医として十分な基礎的・臨床的知識を有するとともに、専門医受験に十分な診断能力といった臨床技量を身につける。
教育資源	日常臨床の機会を利用し、デンタル・パノラマ等の単純写真、CT・MRI・US等の画像所見に基づいて読影報告書を作成する。その際、病院カンファレンスルーム備付の教科書やwebテキスト等を用いる。	日常臨床の機会を利用し、デンタル・パノラマ等の単純写真、CT・MRI・US等の画像所見に基づいて読影報告書を作成する。その際、病院カンファレンスルーム備付の教科書やwebテキスト等を用いる。	日常臨床の機会を利用し、デンタル・パノラマ等の単純写真、CT・MRI・US等の画像所見に基づいて読影報告書を作成する。その際、病院カンファレンスルーム備付の教科書やwebテキスト等を用いる。 学内で開催される放射線施設利用者教育訓練に出席する。	日常臨床の機会を利用し、デンタル・パノラマ等の単純写真、CT・MRI・US等の画像所見に基づいて読影報告書を作成する。その際、病院カンファレンスルーム備付の教科書やwebテキスト等を用いる。 学内で開催される放射線施設利用者教育訓練に出席する。 放射線治療に関する合同検討会に出席する。	日常臨床の機会を利用し、デンタル・パノラマ等の単純写真、CT・MRI・US等の画像所見に基づいて読影報告書を作成する。その際、病院カンファレンスルーム備付の教科書やwebテキスト等を用いる。 学内で開催される放射線施設利用者教育訓練に出席する。 放射線治療に関する合同検討会に出席する。
評価方法	●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行う。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。	●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行う。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。	●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行なう。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。 ●また、放射線施設利用者教育訓練は出席の結果をもって評価する。	●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行なう。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。 ●また、放射線施設利用者教育訓練は出席の結果をもって評価する。	●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名が総合的に評価を行う。

顎顔面再建学講座

歯科麻酔学分野

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	歯科麻酔専門医（認定医）に必要な口腔外科、検査診断学及び救急医学領域の基本的知識、態度、技能を習得する。	笑気吸入鎮静法または静脈内鎮静法、全身麻酔法を行うために必要な基本的知識、態度、技能を習得する。	各種鎮静法、全身麻酔法疼痛治療を行うために必要な基本的知識、態度、技能を習得する（認定医レベル）。	疼痛治療を含む歯科麻酔領域の全ての疾患の基本的治療法や麻酔管理の理論を習得し、これを実践できる。	疼痛治療を含む歯科麻酔領域の全ての疾患の基本的治療法や麻酔管理の理論を習得し、これを実践できる。
到達目標	1. 口腔外科疾患の診断と治療方針を立てられ、小手術の実施と評価ができる。 2. 病態生理を理解する。そのために内科学、外科学、小児科学の基礎を習得する。 3. 救急救命の基本的処置ができる。 4. 必要な検査を選択・依頼できる。	1. 口腔外科手術、障害者歯科治療において全身麻酔または精神鎮静法を行うために、患者の全身状態を評価できる。 2. 患者の状態を判断して、適切な麻酔法を選択し周術期の全身管理を行うことができる。 3. 麻酔管理を実施できる。 4. 各種のモニターを使用し、その理論を理解できる。	1. 様々な全身疾患や開口障害などの気道に問題のある患者に対して麻酔管理を実施し、評価できる。 2. 知覚検査を実施できる。 3. 痛みの性質を理解し、診断できる。	1. 麻酔管理を実施し、評価できる。 2. 痛みの診断ができる。 3. 痛みの治療法を理解できる。	1. 歯科麻酔学会認定医試験の認定医資格を得る。 2. 研究計画を立案できるようになる。
教育資源	1. 小手術を対象とする口腔外科外来患者と全身麻酔下手術予定の口腔外科入院患者 2. 救急部における救急救命患者 3. 各専門分野の文献	1. 全身状態の比較的良好な麻酔施行予定患者 2. 麻酔学および歯科麻酔学に関連する、あらゆる医学文献 3. 症例検討会、抄読会への参加	1. 高齢者や乳幼児を含む各種の全身的合併症を持つ患者 2. 歯科麻酔学分野および関連医学文献 3. 外来における疼痛を有する患者	1. 全身麻酔施行予定患者 2. 慢性疼痛疾患患者 3. 歯科麻酔学分野および関連医学文献 4. 学会参加	1. 全身麻酔施行予定患者 2. 慢性疼痛疾患患者 3. 歯科麻酔学分野および関連医学文献
評価方法	1. 麻酔ケース終了数（20ケース以上） 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 担当教員による口頭試問	1. 麻酔ケース終了数（50ケース以上） 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 担当教員による口頭試問	1. 麻酔ケース終了数（50ケース以上） 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 担当教員による口頭試問	1. 麻酔ケース終了数（50ケース以上） 2. 学会発表	1. 麻酔ケース終了数（各170ケース以上） 2. 学会発表

あとがき

臨床系歯学を志す皆さんには、個々のニーズに応えるべくさまざまなプログラムが用意されています。研究と臨床の両立は簡単ではありませんが、皆さんの豊富な吸収力と柔軟性をもってすれば決して難しいことではありません。充実した指導教官陣は、皆さんの向上心や高い志に必ずやお応えできると自負しております。大学院生として「今だからできる」、「今しかできない」多くの経験を重ねることを通じて、臨床に根ざしたアカデミックな好奇心を鍛えていただき、グローバルな視点やリサーチマインドを備えた有能な高度専門医療職業人として大成されますことを期待しています。

大学院生の皆さんには研究と臨床の研鑽の旅の道しるべとなるように、また大学院を目指す方々には進路決定のガイドとして、このパンフレットは編集されました。多くの皆様に役立てていただけることを願っています。

新潟大学医歯学総合病院副病院長
小林正治

「臨床系歯学を専攻する学生のために」
発行日／令和２年４月
発行者／新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻
高度口腔機能教育研究センター
〒951-8514新潟市中央区学校町通２番町5274番地
TEL：025-227-2798・2799　FAX：025-227-0803
URL：https://www.dent.niigata-u.ac.jp/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

NIIGATA UNIVERSITY